



# ウイメンズ women's health ヘルス

## 不妊症

高井 泰

埼玉医科大学総合医療センター産婦人科教授

### はじめに

近年の社会情勢により女性の結婚年齢は晩婚化する傾向にあり、少子化は今や社会問題となっている。こうしたなかで不妊症診療のもつ社会的意義はますます大きくなっているといわざるをえない。不妊症診療は、生殖メカニズムに関するさまざまな研究知見の集積を背景として、血中ホルモン動態などの測定、超音波検査やMRIなどの画像診断、腹腔鏡・子宮鏡下手術による診断および治療、ヒト配偶子・受精卵を対象とする生殖補助医療(assisted reproductive technology: ART。体外受精、顕微授精などの総称)、専門知識に基づく看護や心理支援などきわめて多方面からのアプローチを必要とする。本稿では、不妊症の病態、不妊症診療に必要な検査および治療の進め方について概説し、併せて最近の不妊治療の動向や乳癌との関連について述べる。

### 不妊症の定義と頻度

日本産科婦人科学会では、妊娠を望む健康な男女が避妊をしないで性交をしているにもかかわらず、1年間妊娠しないものを不妊症と定義している。しかし、排卵障害や月経不順、子宮内膜症や子宮筋腫などの婦人科疾患、腹膜炎などの既往を有する場合や、女性で

は概ね35歳以上、男性では概ね40歳以上で妊娠しにくくなるとされている。このような場合は、1年未満でも検査や治療に踏み切った方がよいことも少なくない。最近の全国調査<sup>1)</sup>では、不妊症の検査や治療を受けたことがある(または現在受けている)夫婦は18.2%に上る。

### 不妊症の原因

妊娠の成立に必要な造精、排精、排卵、受精、着床の障害となるすべての因子が不妊症の原因となりうる。**表1**に主な不妊症の原因をあげる。2)卵管因子、3)頸管因子、4)受精因子は精子と卵子の受精を妨げる広義の受精因子と考えられる。しかしながら、妊娠成立のメカニズムはいまだ不明の点が多く、原因不明とされる症例が20-50%を占めるのが現状であり、加齢による配偶子の機能低下(いわゆる「卵子老化」<sup>2)</sup>など)も無視できないのが現状である。また、個々の症例においては、単一の不妊因子によらずに、複数の軽度の不妊因子が複合して不妊症を引き起こしていることも少なくない。

また近年では、乳癌などの悪性腫瘍に対する抗癌剤・放射線の生殖腺毒性や生殖腺切除による医原性不妊も注目されている。これに対する妊孕性温存対策として、精子・卵子・受精卵凍結などの生殖医療技術が